

作者紹介

ウィリアム=ギブスン：1948年、米サウスカロライナ州コンウェイ生まれ。77年にブリティッシュ・コロンビア大学を卒業、同年にセミプロ雑誌でデビュー。82年に「クローム襲撃」、84年に初の長篇『ニューロマンサー』を発表し、サイバーパンク運動の牽引役となる。『ニューロマンサー』ではネビュラ、フィリップ・K・ディック記念、ヒューゴー各賞を受賞。同作品は後の『カウント・ゼロ』（86年）、『モナリザ・オーヴァードライブ』（88年）と並び「電腦三部作」と評されている。他の作品に90年代の「橋三部作」、『パターン・レコグニション』（03年）、『スプーク・カントリー』（07年）。

ブルース=スターリング：1954年、米テキサス州ブラウンズビル生まれ。テキサス大学に入学後、ハーラン=エリソンに見いだされ、アンソロジーにてデビュー。初の長篇『塵クジラの海』（77年、『蟬の女王』序文では『縮退洋』と訳されている）の後、82年の短篇「巣」「スパイダー・ローズ」にて注目を集める。85年に『スキズマトリックス』を発表、97年の短篇「自転車修理人」でヒューゴー賞、99年の「タクラマカン」でヒューゴー、ローカス各賞を受賞。他の作品に『ネットの中の島々』（89年）、『ディストラクション』（98年）、ノンフィクションの『ハッカーを追え！』（92年）など。

参考：ともにフリー百科事典 Wikipedia

あらすじ

史実と異なり、蒸気機関が極限まで進化した19世紀中葉のロンドン。蒸気駆動、歯車式のコンピューターがあらゆる演算をこなし、産業構造は大きな変化を遂げていた。

チャールズ=エグレモンらの主導により処刑された機械打ち壊し（ラッドライト）運動の指導者の娘・シビル=ジェラードは、腕利きのクラッカーであるミック=ラドリーと出会い、パリに誘われる。しかしラドリーは、テキサス元大統領サム=ヒューストンの演説を企画した際、ヒューストンの暗殺を企てる人物に殺害されてしまった。ミックという後ろ盾を失ったシビルは、単身パリへと向かうことを決意する。

5ヶ月後、自動車レース会場にいた古生物学者・エドワード=マロリーは、イギリス首相の娘・エイダ=バイロンを暴漢から救い、そのときにモーダスを彼女から受け取る。それ以降、マロリーを狙う刺客が次々と現れる。ジャーナリストを自称するローレンス=オリファントに身の危険を警告され、特別公安部の警部・エベニーザー=フレイザーが身辺警護につく。同月、ロンドン全域を巻き込む大悪臭が発生、市内は無政府状態に陥る。これに乗じて暴動を企てた集団とマロリーらが対決するが、そこで数々の事実が明らかになる。集団のリーダーであるキャプテン・スウィングは、エイダを襲った張本人であり、そのとき行動をともにしていた女・フローレンス=ラッセル=バートレットも暴動の中核にいたのだ。

暴動の鎮圧後、モーダスの正体が明らかになっていく。モーダスは賭博必勝法だと考えられていたが、実はそうではなく、とある公式なのだという。逮捕されたキャプテン・スウィングによれば、フランスの大ナポレオンにてその公式を走らせたそうだが、そのモーダスはどうやらシビルの手から彼に渡った

らしい。オリファントは、エグレモントを失脚させる材料——シビルがエグレモントに宛てた電信——を種に、シビルとの接触を試みる。

1991年。モーダスは無限の反復と後退の結果として、あるものを認識する。それは、自我であった。

主な登場人物

※あらすじにより各人の基本情報は割愛。後述する小説『シビル、または二つの国民』の登場人物には★印を振った。

シビル=ジェラード ★

ミック=ラドリー ★

サム=ヒューストン

エドワード=マロリー

ローレンス=オリファント

エベニーザー=フレイザー

キャプテン・スウィング

フローレンス=ラッセル=バートレット

モーダス

論点

歴史改変

The circular arrangement of the axes of Difference Engine round large central wheels led to the most extended prospects. The whole of arithmetic now appeared within the grasp of mechanism. A vague glimpse even of an Analytical Engine opened out, and I pursued with enthusiasm the shadowy vision.

(Lord Charles Babbage, *Passages in the Life of a Philosopher*)

『ディファレンス・エンジン』は完全なフィクションというわけではなく、非常に精密に歴史を追った上での歴史改変小説である。小説中には史実通りであったり、若干時系列がずれただけ、というような歴史的事実が山のように登場する。また、人物についてもほとんどが——1ページだけしか出てこないような人物でさえ——実在している。

- ✓ 世界情勢、特にイギリスとアメリカ大陸について
- ✓ イギリス国内の政治情勢
- ✓ 産業技術、学術的進歩の改変
- ✓ 開国日本について

『シビル、または二つの国民』

Two nations between whom there is no intercourse and no sympathy; who are ignorant of each other's habits, thoughts and feelings, as if they were dwellers in different zones or inhabitants of different planets; who are formed by different breeding, are fed by different food, are ordered by different manners, and are not governed by the same laws ...The rich and the poor.

(Benjamin Disraeli, *Sybil, or the Two Nations*)

「主な登場人物」の項を見ても分かる通り、この作品の登場人物の多くが、ベンジャミン=ディズレイリの小説『シビル、または二つの国民』（原題：Sybil, or the Two Nations、1845）の登場人物から取られている。シビル、ミックの他にも、シビルの父ウォルターや、エグレメントなどが登場している。

この作品は、産業革命期のロンドンにおける貧富の差を描いたものであり、あらすじは文庫版『ディファレンス・エンジン』巻末の「差分事典」に詳しい。なお、表題の「二つの国民」とは富者と貧者とをさす。ディズレイリは政治家でもあり、この小説を通じて社会改良の必要性を訴えた。

- ✓ この作品から登場人物が引かれているのは第一の反復のみである
- ✓ なぜこの作品から登場人物を引いたのか
- ✓ 二作品間に何らかの共通構造はあるのか

反復

Recede.

Reiterate.

Rise above these black patterns of wheel-tracks,

These snow-swept streets,

Into the great map of London,

forgetting

(William Gibson & Bruce Sterling, *The Difference Engine*)

差分機関において「反復」とは、数式の近似解を出すために幾度も繰り返す計算過程のことである。この作品において、「反復」は少なくとも5回なされている。

- ✓ ゴーリアドの「天使」とは何か
- ✓ 裏取引屋、または Dark-Lanterns の意味は
- ✓ 七つの呪いとは
- ✓ 『バビロンドンの娼婦の七つの呪い』
- ✓ すべてを見そなわす眼とは
- ✓ 第一から第五までの反復は、「反復」なのか
- ✓ 反復の結果出た「近似解」とは

モーダス

Dying to be born.

The light is strong,

The light is clear;

The Eye at last must see itself

Myself...

I see:

I see,

I see

I

!

(William Gibson & Bruce Sterling, *The Difference Engine*)

計 5 回の反復の後、終章めいたものとして「モーダス 提示されたイメージ」という一連の文書群が存在する。バベッジの発明である差分機関に欠かすことのできない「機械表記法」の誕生からのイギリス社会の変遷を、それぞれ独立した資料を引く形で提示している。最後に老いたレイディエイダの公演の様子を提示して、1991 年のロンドンのイメージに移る。

- ✓ 「機械表記法」の誕生からイメージは始まっている
- ✓ 提示されたイメージでの各文書はそれぞれどういった意味を持つのか
- ✓ 各文書は時系列が揃っていない
- ✓ 物語の語り手は
- ✓ 反復とは、そして後退とは
- ✓ 私／！

- ✓ なぜ Iterate ではなく Reiterate なのか
- ✓ 三つの I see の意味は
- ✓ 原文と邦訳版とではインデントの仕様が異なる

その他、ご自由に。